

- (1) 乗車船券および航空券の代売
- (2) 請負旅行の引受
- (3) 手荷物および傷害保険の引受
- (4) ホテル予約およびホテル・クーポンの発行
- (5) 旅行に関するインフォメーションの提供 (北田勝助)

あゆみいた 歩み板 (英) running board 蒸気機関車ボイラ胴の外側に、テンダ機関車では運転室から前端部まで、タンク機関車では側水タンクから前端部まで、機関士または機関助士が歩きうるように取付けられた板製の足場。足がすべらないようにし鋼板製が多いが木板も使われることがある。前部は端ばり部の台わく上にとり、中間を煙室胴およびボイラ胴に取付けられたささえによってささえられている。テンダ機関車では運転室から前開戸を開けると、この上に出来るようになっており、一般に大形機関車では歩み板は蒸気ドーム付近でボイラ胴をまたいで取付けられた踏段によって左右連絡できるようにになっている。機関車の点検や修繕あるいは給油などの際の足場となるものである。(次頁図参照) (高桑五六)

あらおしえいてんきてつどう 荒尾市営電気鉄道

1 事業者の概要

名称 荒尾市、所在地 熊本県荒尾市万田曾根、資本金 3,772万円、おもな事業 地方鉄道、旅客自動車運送 (一般乗合 47km, 一般貸切)。鉄道従事員 22人, 保有車両電動客車 4, 貨車 1両。

沿革 元陸軍造兵廠(しょう)の施設で昭和 23 年市が財務局より軌道施設を譲受け整備の上、地方鉄道として運輸開始。

2 地方鉄道線

国鉄鹿児島本線荒尾駅より分岐、荒尾・緑ヶ丘間 5.1km, 動力電気、軌間 1.067m, 単線で旅客・貨物運輸を目的とする。昭和 23・11・24 免許, 同 25・12・21 までに全通, 貨物のみ国鉄と連絡運輸。

3 運輸概況



項目	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	1,077	1,017	964
人キロ(千)	4,825	5,189	4,919
貨物輸送トン数(千t)	7	5	6
トンキロ(千)	57	24	19
旅客収入(千円)	8,379	9,852	9,235
貨物収入(〃)	811	546	636
収入合計(〃)	9,190	10,415	9,919
営業費(〃)	11,423	10,154	12,308
営業利益(〃)	△ 2,233	262	△ 2,389
営業係数(%)	124	97	124

注 昭和 29, 30 年度収入合計には雑収を含む。(嵯峨野福次)

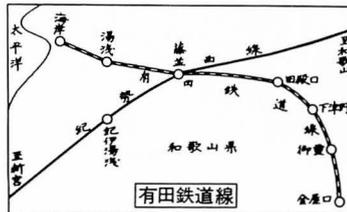
あらに 荒荷 (英) bulk freight 雑貨との区別に用いられる言葉で、木材、竹材、石材、鉄材、石炭、砂利等のように、一般に荷造りを必要とせず、相当数量まとまって輸送される大量貨物をいい、荒荷を取扱うための積卸線を荒荷線という。荒荷を取扱うための積卸場を荒荷積卸場といい、貨物上家は設けないのが通例であって、高めたホームを設けず地平のままとすることが多い。大量貨物を取扱うため小運搬車も大型のトラックが多く、荷役の能率を上げるためにはできるだけトラックの通路を舗装することが望ましい。(近藤正弘)

ありたてつどう 有田鉄道

1 事業者の概要

名称 有田鉄道株式会社, 本社 和歌山県有田郡御霊村, 資本金 495万円, おもな事業 地方鉄道, 旅客自動車運送 (一般乗合 10.7km, 一般貸切), 鉄道従事員 26人, 保有車両機関車内燃 1, 内燃動客車 3, 貨車 10両。

沿革 大正 2・2・28 資本金 25 万円で有田軽便鉄道株式会社設立, 大正 2・6・28 有田鉄道株式会社と商号変更, 同 4 年海岸・下津野間を, 同 5 年下津野・金屋口間を開業現在に至る。



2 地方鉄道線

国鉄紀勢西線藤並駅に連絡、海岸・金屋口間 (和歌山県) 9.1km, 単線, 動力蒸気・ガソリン, 軌間 1.067m, 旅客貨物運輸を目的とする。明治 45・3・9 免許, 大正 5・7・1 全通, 海岸・藤並間 3.3km は昭和 19・12・10 より休止中。昭和 26・7 より国鉄線藤並・紀伊湯浅間へ直通運転実施。

3 運輸概況

項目	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	584	884	887
人キロ(千)	2,622	3,933	3,856
貨物輸送トン数(千t)	8	19	18
トンキロ(千)	45	107	101
旅客収入(千円)	10,377	19,275	18,211
貨物収入(〃)	1,390	3,766	3,632
運輸雑収(〃)	663	1,015	1,099
収入合計(〃)	12,429	24,056	22,942
営業費(〃)	15,869	20,574	19,101
営業利益(〃)	△ 3,439	3,482	3,840
営業係数(%)	128	86	81

(原 功)

アルヴェークてつどう アルヴェーク鉄道 (独) Alweg-Bahn

1 本レールの鉄道の一種で、この考案の推進者であるスウェーデンの実業家 A. L. Wenner-Gren の頭文字をとって名付けられたもの。1952 年西ドイツ, ケルン市郊外に試験的に模型を設置, その高性能と経済性に多大の関心がよせられている。線路は支柱でささえられた鉄筋コンクリート製の 1 本の高架桁(こうかけた)で、アルヴェーク鉄道その断面は矩形(くけい)をなし、車両は下半中央部が逆凹(おう)字形にくびれ、あたかもくらが馬の背におかれているような格好で、線路上にまたがる。軽金属流線形の各車両は、それぞれ 2 組のボギー上におかれ、ボギーは、桁の上面を、ゴム輪の電動ローラで、時速 360km をもって走行する。安定度を高めるため、桁の側面にそって走るガイド・ローラが、逆

